

## 地域経済ウォッチング

いわき民報 2010年9月30日(木曜日)

### グローバル化と外国人受け入れの変容

#### ウオン安に沸く韓国の現状から

#### 旅行者に安心感を与える姿勢の整備を

東日本国際大学国際センター長

松本 優梨

グローバル化があらゆる分野で進展している現在、人の流れもまた急速に拡大している。日本も国を挙げて多くの外国人を積極的に受け入れようとしているが、その中で外国人留学生については「留学生 30 万人計画」を推進しているところである。

筆者自身がアジア人として、米国をはじめ韓国、台湾などで教育を受けてきたが、縁あって現在日本のいわきで外国人留学生を受け入れる仕事に携わっている。当時と比べれば外国で学ぶ学生は飛躍的に増加しており、東日本国際大学でも多くの外国人(とくにアジアからの)留学生を受け入れているが、取り巻く環境はどれほど変わったのだろうか。

先日は、日本留学フェアに参加するため韓国へ行って来たが、今回は航空券の席の空きが無く、さらに韓国ソウル市内のホテルの部屋がほとんど満室状態であった。今までにない状況にただただ驚いていたが、韓国に着いて分かったのは、以前とは比較にならないくらい多い中国人観光客と円高の波に乗った日本人観光客の数であった。タクシーの運転手は、韓国で現在観光客を誘致することで最も緊急な問題は宿泊先であり、買い物に来る日本人

の観光客、急増する中国人の団体観光客で、どのホテルも満室状態であると話していた。そのため観光バスも急に増え、どこも渋滞が酷くなり、とくにソウル市内の中心にある観光場所付近へ行くには公共交通手段を利用した方が絶対早いと言われた。

今年韓国を訪れると予想される中国人観光客が 200 万人に達し、2012 年までには 300 万人を誘致し、10 年後には 1,000 万人に達すると予測されている。韓国政府はこれに伴い首都圏一帯の宿泊施設を大幅拡充することなど対策を講じているようだ。中国人観光客の消費額は韓国を訪れる外国人観光客の中で最も大きい。ショッピング活性化のために一定水準以上の店を対象にショッピング認証制を導入し、事後免税制度も強化する予定である。地方自治体も韓国の最大の顧客である中国人観光客つかみに全力投球している。8 月からは政府がビザ発給要件緩和と手続き簡素化などの制度改善を行い、中国人観光客誘致拡大競争はより一層加熱している。最近ソウル市が世論調査機関を通じてソウルを訪問した外国人観光客 1,808 人を相手に調査した結果、ソウルで使った費用は平均 1,670 ドルであり、このうち中国人観光客の支出額は平均 2,203 ドルで全体平均より何と 32% も多い水準であると報じていた。

なお日本人の観光客もそれに負けず、円高・ウォン安のメリットを満喫しているようで、免税店の人気ブランドショップには長い行列が出来ていた。

しかし、韓国の観光客の受け入れ態勢はハードもソフトも全く追いついておらず、観光客は当然だが、ビジネスで訪れる外国人にとって非常に不安になるというのが実感である。

今回宿泊先として泊まったところは、特級ホテルの値段とそれほど変わらないのに、ホテルと名乗れない程の設備やサービスであったし、観光客が増えたと言うのに、日本語表記や中国語表記がされている場所はそれほど増えていない。観光客が多く訪れる明洞や南大門市場、そして梨泰院は韓国語が出来なくても不自由しないが、そこを少しでも離れると外国語は全然通じないので、観光客の行動半径は非常に狭いし、初めて韓国を訪れる個人旅行者

には非常に心細い。こうした事態は、長期的には韓国のイメージを損なうことになるのではないかと心配してしまう。

翻って日本はどうだろうか。韓国とは異なり、短期的には現在の円高がインバウンドの観光客や留学生の誘致に大きなマイナスとなっているが、それでも韓国、そして中国からの来訪者の増加は続いていこう。既に一部の小売、サービス業などでは、国内消費の冷え込みもあって中国などからの外国人観光客をターゲットにした市場開拓に積極的に取り組んでいる。しかし日々留学生と向き合う中で、異文化に対する理解や日本文化の発信なども含めて、国全体としての国際交流や外国人受け入れ態勢の整備はまだ遅れているように感じる。韓国の状況を他山の石とし、日本の国際交流の課題、そして日々の仕事についても考えていかなければならないと感じた韓国出張であった。

(本コラムは本年度いわきヒューマンカレッジ「現代アジア学部」の内容と一部連動しています。)